

技術・家庭科（技術分野）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○技術と生活や社会、環境との関わりについて、より一層の理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○資料と本文の関係及び資料の配置には、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。 ○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<p style="text-align: center;">新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology</p>	<p style="text-align: center;">2 東 書</p>
内容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○技術の原理・法則や基礎的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図などが掲載され、科学的な思考に基づく知識が習得できるよう工夫されている。 ○問題解決をするために身に付ける必要がある技能は、副題材の実践例や「TECH Lab」にまとめられ、問題に応じて習得した技能を適切に選択できるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の習得を行い、その後「技術の問題解決の工夫」「問題の発見と課題の設定」を行う学習内容で構成されている。そして第2章の最後に「問題解決の評価、改善・修正」を取り上げ、自分たちの学習過程を振り返らせるよう工夫されている。また、生徒自身の問題解決に導くため、「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れを統一的に示されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために「技術のめがね」「最適化の窓」という欄が設けられている。</p> <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の「社会と発展と技術」では、「技術の光と影」について示されており、持続可能な社会のためにどのようなことができるか考えさせるよう工夫されている。 ○巻頭の「SDGs と Technology」では、持続可能な社会の構築のために技術が果たしている役割について分かりやすくするよう工夫されている。 ○巻末の「Society5.0 のその先へ」では、AIやIoT、ビッグデータについて示されており、持続可能な未来のためにどのようなことができるか考えさせるよう工夫されている。</p> <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて最適化について考慮し、これからの新しい技術の開発と持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。</p>	
資料	<p>○問題解決例が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。 ○各編の最終章には、生徒が、技術を評価し、適切に簡易・運用したり、新たな発想に基づいて改良・応用したりするためのワークシートが掲載されている。 ○技術に携わる人を紹介する「技術の匠」や、先進的な分野の「技術の匠」を紹介する「すごいぞ！技術」が掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。 ○技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。</p>	
表記・表現	<p>○書体はUD書体が使用されている。また、可読性を高めるとともに、重要語句は太字で表現されている。さらに、カラーバリアフリーの観点から、配色とデザインについて、色覚に関する校閲を受けるなど、ユニバーサルデザインに配慮されている。</p>	
総括	<p>○各内容は、「理解する」、「問題解決に取り組む」、「つなげる、広げる」のまとまりで構成されている。 ○「統合的な問題解決」では、新しい技術イノベーションにつながる問題解決になるために、四つの技術を統合するよう工夫されている。</p>	

書名 項目	新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する	6 教 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○基礎・基本の知識と技能を1章で習得するように構成され、2章の「プチ問題解決にチャレンジ!」の製作題材は基礎技能が学べる題材になるよう工夫されている。 ○教科書と別冊「スキルアシスト」により、技能を身に付けることができるようにし、加工法の確認や実習中に作業を確認できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも第1章で基本的な知識と技術の工夫について学び、その後第2章で設計や計画について学習するよう構成されている。また、1章と2章の最後の「学んだことをまとめよう」で、身近な地域の取組を調べて自分たちの学習過程を振り返らせるよう工夫されている。問題解決の流れを「イメージしよう」「設計(計画)しよう」「完成させよう(育てよう)」「活用しよう(振り返ろう)」の4ステップで統一的に示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために「未来をつくろう」「やってみよう」という欄が設けられている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の「社会と発展と技術」では、「技術のプラス面とマイナス面」について示されており、「技術の誠実ないかしかた」を考えさせるよう工夫されている。 ○SDGsの17の目標のマークが関連する学習内容に示されており、日本や社会で起こる諸問題を、自らに関わる課題として捉えさせるよう工夫されている。 ○巻末の「未来の社会を創造しよう!」では、3年間で学んだことを振り返り、未来にどのような技術があったら役に立つか考えさせるよう工夫されている。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて今ある技術のプラス面・マイナス面を考慮し、未来のために持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○実習題材が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。 ○生徒自身の設計や計画を記入できる「設計・計画シート」「計画・育成シート」が用意されている。 ○技術に携わる人を紹介する「技ビト」や、様々な製品に込められた技術などを紹介する「スゴ技」が掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。 ○技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。 </p>	
表記 ・ 表現	<p> ○書体はUD書体が使用されている。また、カラーバリアフリーの観点から、色覚に関する校閲を受けるとともに、重要語句は青太文字にし、視認性を上げるように配慮されている。 </p>	
総 括	<p> ○各内容は、「技術を見つめよう」、「技術をいかそう」、「未来をつくろう」のまとまりで構成されている。 ○「夢をかなえる技術」では、夢を形にしたり、工夫し創造することの大切さを伝えたりするために、領域を横断した様々な技術を紹介するよう工夫されている。 </p>	

書名 項目	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	9 開隆堂
内容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに、「生活の中の真理」を追究できるようになるために、科学的な根拠を基に技術を理解・習得できるよう工夫されている。 ○適宜「実験」や「調べ学習」を取り上げ、科学的な根拠を伴い技術を理解できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後「問題解決の手順（内容A）」「技術による問題解決（内容BCD）」について学習するよう構成されている。また、技術の学習で行う問題解決の流れを見開きで表記されており、ガイダンスでは漫画形式で問題解決の流れが示され、各内容では「問題の発見と課題の設定」「構想と設計（計画）」「製作（制作、育成）」「成果の評価と改善」で統一的に示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために「技術と私たちの未来」「学習を振り返ろう」という欄が設けられている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の「社会と発展と技術」では、技術の「可能性」と「課題」について示されており、これからの技術とその活用について考えさせるよう工夫されている。 ○各内容のワークシートに、「技術とSDGsとの関連」について考えさせたり、「SDGsの実現に向けてどのようにかかわっていたか」振り返らせたりするよう工夫されている。 ○巻末の「命を守る防災、医療・介護の技術」では、自然災害や病気・けがなどについて、3年間で学んだことを生かし、解決策について考えさせるよう工夫されている。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、学習内容から技術の見方・考え方を働かせて社会とのつながりについて考慮し、新しい技術の開発と持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。 </p>	
資料	<p> ○実習例が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。 ○既存の製品を調べて技術の見方を働かせるためのワークシート、問題解決について技術の見方・考え方を基に振り返るためのワークシートが掲載されている。 ○技術に携わる人が「Interview」として紹介され、仕事内容や仕事に就いたきっかけが掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。 ○技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。 </p>	
表記・表現	<p> ○書体はUD書体が使用されている。また、重要語句は(ゴシック体)太字にして、表記のメリハリがつけられるよう工夫されている。さらに、カラーユニバーサルデザインに関して、校閲を受け、人によって受ける情報に差が出ないように配慮されている。 </p>	
総括	<p> ○各内容は、「基礎・基本」、「問題解決」、「技術と私たちの未来」のまとまりで構成されている。 ○「技術の出口」では、社会の問題に技術で対応するために、様々な技術を組み合わせた考え方を深められるよう工夫されている。 </p>	

技術・家庭科（技術分野） 調査資料 2

○分量について

内容	東書	教図	開隆堂
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	305	339	302
2 QRコードの数(※「教図」は別冊も含む)	136	61	113

○項目別ページ数について

<A 材料と加工の技術>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える材料と加工の技術	27	19	22
(2) 材料と加工の技術による問題の解決	15	31	48
(3) 社会の発展と材料と加工の技術	9	4	4

<B 生物育成の技術>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える生物育成の技術	15	13	18
(2) 生物育成の技術による問題の解決	15	23	20
(3) 社会の発展と生物育成の技術	9	4	4

<C エネルギー変換の技術>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	32	22	28
(2) エネルギー変換の技術による問題の解決	22	32	16
(3) 社会の発展とエネルギー変換の技術	6	4	4

<D 情報の技術>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える情報の技術	20	18	34
(2) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決	18	28	16
(3) 計測・制御のプログラミングによる問題の解決	18	22	12
(4) 社会の発展と情報の技術	6	4	4

○キャリア教育との関連にかかわる箇所と例

東書	33 技術の匠 プロダクトデザイン 建設家 文具メーカー 農福連携 林業 自動車部品メーカー 化学工業メーカー メタバース ボディシェアリング 学んだことを社会に生かす
教図	21 技ビト 先輩からのメッセージ 木工作家 盤師 水産技術 養豚農家 電動車椅子 整備サポート 筋電義手 音声合成技術 日本の技術を支える人々の想い
開隆堂	7 家具 造船 栽培・飼育・養殖・林業 アシストギア トイレ用リモコン ロボット Toy プログラミング教材 Interview

○企業などとの連携にかかわる箇所と例

東書	31 持続可能な未来を目指して 未来を創る技術による問題解決 燃料自動車 新幹線 発電エネルギー問題 自動販売機 チャットボット 自然災害に備える AI ボディシェアリング
教図	23 建築技術 町工場技術 環境調節の技術 選抜育種 水産生物の飼育 編む技術 電気の安定供給 ロボット メタバース 生体認証 ドローン 宇宙から水産業・農業を支える
開隆堂	22 自動運転技術・ナビゲーションアプリ等 企業の製品開発 CAD 3Dプリンタ CLT 完全養殖 品種改良 複合飼育 酪農教育ファーム 地域の公的機関や教育機関、企業 エネルギーの有効利用 フィルタリング オープンソース

○安全指導にかかわる箇所（※安全にかかわるマークの数）

東書	19 作業 工具 機械 塗装 農薬 飼育 水産生物 電気機器 情報の学習
教図	47 実習 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検 情報セキュリティ
開隆堂	25 作業 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検

○その他

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 題材数	15	15	14
(2) 製作品の例示数	12	18	32
(3) 観察・実験、見学、調査・研究の例示数	187	157	178
(4) 技術にかかわる倫理観(知的財産、生命倫理、情報モラル等) について取り上げている箇所数	27	33	48

技術・家庭科（家庭分野）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにするため、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><実践的・体験的な活動の工夫> ○調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して学習することにより、習得した知識及び技能を生徒自らの生活に生かすことができるようにするために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○挿絵・写真・図表等、資料と本文の関係及び資料のレイアウトには、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○家庭分野における学習方法の特質である衣食住などに関する実践的・体験的な活動を安全かつ効果的に進めるために、どのような工夫が見られるか。 ○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。 ○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	2 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">東 書</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「いつも確かめよう」で基礎的な技能がまとめて掲載され、基礎的な知識・技能が習得できるように工夫がされている。 ○各編の最後に「学習のまとめ」、「大切な用語の確認」が掲載され、学習の振り返りができる構成になっており、基礎的な知識・技能が習得できるように工夫がされている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○小学校で学んだことが示してあり、学びの系統性が一目で分かるようになっており、各編の導入では、課題設定が記入できるように工夫がされている。 ○家庭分野の見方・考え方の例が示してあり、問題解決に生かすことができるように工夫がされている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○自分自身の生活を振り返ったり、自分の考えを深めたりする場面が多く設けられており、生活に生かそうとする態度を育成できるように工夫がされている。 ○各章末に学習のまとめ「生活に生かそう」が設けられており、主体的に学習に取り組む態度の育成ができるように工夫がされている。 ○教科書の最後に「選択」が設けられており、これまでの学習を基によりよい生活を創造しようとする態度を養うための工夫がされている。 </p> <p> <実践的・体験的な活動の工夫> ○実習や生活で必要となる基礎的な技能が分かりやすく掲載されている。 ○選択できる実習例が多く掲載されている。 </p>	
資 料	<p> ○本文と資料は「資料マーク」で区別され、ページ下には学習内容の関連豆知識を「せいかつメモ」として記載され、レイアウトが工夫されている。 ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ、コンピュータを用いたワークシートやシミュレーションや思考ツール等、学習効果を高めるための工夫がされている。 ○基礎的・基本的な実習例のほか、生徒の実態に合わせて資料を選択することができるように工夫がされている。 </p>	
表記・表現	<p> ○見開きごとに「目標」と「学習課題」が掲載されている。 ○実習例では写真や図を使用し、安全・衛生の注意事項にマークを表記している。食物アレルギー物質を含む食材には記号が表記されている。 ○ユニバーサルデザインフォントや、色彩特性に配慮されている。 </p>	
総 括	<p> ○ガイダンス後、B(衣食住の生活)、C(消費生活・環境)、A(家族・家庭生活)の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。 </p>	

技術・家庭科（家庭分野）調査資料 1 - 2

書名 項目	技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する	6 教 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きごとに、「見つめる」「見つめてみよう」「学ぶ」「振り返る」の4段階で構成され、問題解決的な学習を進めれば知識・技能が習得できるように工夫がされている。 ○学習のまとまりごとに「学習の振り返り」が掲載され、学習の振り返りができる構成になっており、基礎的・基本的な知識・技能が習得できるように工夫がされている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○実習題材では中学生に身近なレシピを多数示してあり、家庭生活につながるように工夫がされている。 ○自分ごととして捉えられる内容の導入から始まり、問題解決的な学習の流れを明確にするような工夫がされている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「自分の課題を見つけ工夫し生活する」ための実践例が多く記載されており、実践しやすいように工夫がされている。 ○学習内容に関わりのある人からのメッセージやインタビューを紹介し、QRで動画も視聴できるなど、社会とのつながりについて考えられるように工夫がされている。 ○問いかけが多く設けられており、自分の生活から課題を見つけるきっかけになるように工夫がされている。 </p> <p> <実践的・体験的な活動の工夫> ○実態に応じて活用できるように、様々な実習例が分かりやすく掲載されている。 ○他領域と関連付けた実習例が多く掲載されている。 </p>	
資 料	<p> ○本文と資料はマークで区分されて、視覚的な資料を掲載するなどレイアウトに工夫がされている。 ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ、コンピュータを用いたワークシートや計算ツール、食品シールの付録等、学習効果を高めるための工夫がされている。 ○調理の実習例では、食物アレルギーに対応した代替レシピが記載され、生徒の多様性に沿った工夫がされている。 </p>	
表記・表現	<p> ○二次元コードの横にデジタルコンテンツの内容が表記されている。 ○実習例では写真や図を使用し、衛生の注意事項にマークを表記している。食物アレルギー物質を含む食材には下線が記され、代替食材も記載されている。 ○色遣いや図の見やすさ等、ユニバーサルデザインに配慮されている。 </p>	
総 括	<p> ○ガイダンス後、A(家族・家庭生活)、B(衣食住の生活)、C(消費生活・環境)の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。 </p>	

技術・家庭科（家庭分野）調査資料 1－3

書名 項目	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ	9 開隆堂
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「調理の基礎」や「製作の基礎・基本」で基礎的な技能がまとめて掲載され、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫がされている。 ○内容のまとまりごとに「学習のまとめ」が掲載され、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫がされている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タイトルで何を学ぶのかが示され、科学的根拠に基づき、視覚的に理解しやすいようにまとめており、学習の見通しがもてるように工夫がされている。 ○興味・関心・疑問から、人やもの、事柄と対話し課題解決に向かう力を培えるように工夫がされている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ロールプレイングや触れ合い体験、高齢者インタビューや実際の中学生の取組や地域の取組など、人との関わりについて考えることができるように工夫がされている。 ○各章末に学習のまとめを設けており、その中で「やってみたい、もっと知りたい、深く考えてみたい」と感じさせるように工夫がされている。 ○生活の中での課題を考える場面が多く設定されており、自身の課題を見つけ主体的に取り組めるように工夫がされている。 <p>＜実践的・体験的な活動の工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習例だけでなく、個に応じて深められる内容が掲載されている。 ○資料が豊富で発展的な学習につながるような工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○本文と資料は「参考マーク」で区別され、奇数ページの右上に学習内容の関連写真や名称、各ページ下には豆知識が掲載され、レイアウトに工夫がされている。 ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツが参照でき、基礎縫い動画は左利きの生徒にも対応し、学習効果を高めるための工夫がされている。 ○科学的な見方・考え方が示してあったり、統計資料やグラフを用いて説明の根拠が示してあったりして、学習効果を高めるための工夫がされている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きごとに「学習の目標」が記載されている。 ○調理実習例では写真や図を使用し、衛生の注意事項のマークを表記していたり、食物アレルギー物質を含む食材には黄色を付したりして注意を促す表記がされている。 ○読みやすい文章や書体、大きさ、カラーバリアフリーに配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスの後、A(家族・家庭生活)、B(衣食住の生活)、C(消費生活・環境)の順の内容の配列になっており、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。 	

技術・家庭科（家庭分野） 調査資料 2

○分量について

内容	東書	教図	開隆堂
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	298	296	314
2 QRコードの数	144	73	91

○項目別ページ数について

< A 家族・家庭生活 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 自分の成長と家族・家庭生活	2	2	4
(2) 幼児の生活と家族	34	31	36
(3) 家族・家庭や地域との関わり	16	21	26
(4) 家族・家庭生活についての課題と実践	2	2	2

< B 衣食住の生活 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴	6	12	16
(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事	16	20	10
(3) 日常食の調理と地域の食文化	52	56	56
(4) 衣服の選択と手入れ	24	22	26
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作	20	20	16
(6) 住居の機能と安全な住まい方	18	20	22
(7) 衣食住の生活についての課題と実践	3	4	5

< C 消費生活・環境 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 金銭の管理と購入	14	24	10
(2) 消費者の権利と責任	8	16	16
(3) 消費生活・環境についての課題と実践	1	2	1

○学習指導要領との関連について

内容	東書	教図	開隆堂
(1) ガイダンスに関する内容のページ数	8	8	14
(2) 日本の生活文化に関する内容の掲載箇所	16	30	22
(3) 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るための内容の掲載箇所	25	6	5
(4) 問題解決的な過程を重視した学習の充実を図る内容の掲載箇所	84	143	93
(5) 言語活動の充実を図る内容の掲載箇所	103	80	61

○配慮事項について

内容	東書	教図	開隆堂
(1) キャリア教育についての配慮がされている箇所	17	13	18
(2) コンピュータや情報通信ネットワークの活用を図った箇所	144	73	91
(3) 防犯意識を高める工夫がされている箇所	8	12	14
(4) 特別支援の観点への配慮がされている箇所	教科書全体	教科書全体	教科書全体

○その他

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 題材数	19	11	27
(2) 製作品・調理実習の例示数	14・53	7・52	11・50
(3) 観察・実験、見学、調査・研究の例示数	60	66	56
(4) 安全・衛生に配慮する項目を取り上げている箇所数	13	45	27

外国語科（英語）調査資料 作成の観点

書名	○○○○ ○○○○	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解することができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p>○聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付くように、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○単元などの時間のまとまりごとに、五つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるよう、どのような工夫をしているか。</p> <p>○文、文構造及び文法事項について、言語活動と効果的に関連付けて取り上げており、用語や用法の指導に偏ることのないよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○必要となる語彙を言語活動と効果的に関連付けて取り上げられており、実際のコミュニケーションにおいて活用されるよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○図書の内容と一体のものとして、視聴覚教材などが相互に適切に関連が図られるよう、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真等の資料にはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○字体、記号・符号、用語等の使い方には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○文字の大きさ・行間等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>（全体的な特徴、その他）※学習者用デジタル教科書について記述する。</p>	

書名 項目	NEW HORIZON English Course	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」で構成されている。各「Part」の「Activity」をスモールステップで積み上げて「Unit Activity」へつなげ、統合的な言語活動として年3回の「Stage Activity」が設定されている。 ○「Read and Think」では3回視点を変えて読む「ラウンドリーディング」で英文を適切かつ効率的に読めるよう工夫されている。また、実生活に即した題材を通して、4技能の習得を図ることができるように「Real Life English」が設定されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Preview」で目的や場面、状況を捉え、「Read and Think」では3段階読みで概要や詳細を理解、整理し、「Unit Activity」で表現につなげるよう構成されている。また、「Stage Activity」では、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばすよう構成されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元の「Activity」で積み上げた表現を生かして、目的や場面、状況を踏まえた発信活動を行うよう構成されている。「Language Focus」や「デジタル用例辞典」では、言葉への興味・関心を高め、「ダイバーシティメモ」では多様な文化や価値観への気付きを促すなど、生徒の主体的な言語活動を支えるよう工夫されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各「Part」の「Activity」で積み上げた表現を生かし、単元末の「Unit Activity」に向かって、目的や場面、状況を踏まえた系統的な活動ができるようになっている。また、いずれもパフォーマンス評価を行うことができるよう工夫されている。 ○どの「Unit」も音から導入して文字に向かう順序で4技能をバランスよく扱うよう工夫されている。また、小学校の学びを中学校につなげられるように、聞く、話す、読む、書く活動に何度も触れることができるよう工夫されている。 ○言語活動において必要な語彙が「Key Sentences」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」において、発信語彙が太字で表記されている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭には、1年間の学習の流れが示され学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、「語順カード」が掲載されており、絵・色・形で分類された単語カードをヒントに文が組み立てられるよう工夫されている。 ○単元ごとに、QRコードが掲載されており、単語やスライド、本文などがスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。 </p>	
表記 ・ 表現	<p> ○1年生ほぼ全編を通して手書きに近い独自のフォントを使用し、2年生以降は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を青色で併記している。 </p>	
総 括	<p> ○「Activity」を軸として、英語で伝え合う心豊かな体験を積み上げ、自分の言葉で他者とコミュニケーションできる喜びを実感できることに重点を置いている。積極的に世界とつながろうとする心を育てようとする内容となっている。 ○学習者用デジタル教科書では、スピードや再生方法を変えながら音声を聞いたり、マスク機能を活用したりするなど、個別最適な学びに取り組めるよう工夫されている。 </p>	

書名 項目	SUNSHINE SUNSHINE ENGLISH COURSE	9 開隆堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「とびら」「Scenes」「Tuning in」「Part」「Review and Retell」「Action」で構成されている。マンガ形式で提示された新出表現を、4技能を通して繰り返し学習することで使い方に慣れさせ、学期末の協働学習「Our Project」に繋げるよう構成されている。 ○「Power-Up」では、実生活に即した場面設定で4技能を伸ばせるよう工夫されている。また「Step」では発表のコツに関することや簡単な表現の言い換え、簡単なディスカッションの進め方など英語学習における重要な技能が系統的に扱われている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Tuning in」で題材の予備知識を習得し、各「Part」で題材内容について考え、「Review & Retell」で内容を整理し、「Action」で自己表現活動につなげるよう構成されている。また、「Our Project」では、「Program」の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Our Project」に向けて、スモールステップで基礎・基本の着実な定着を促すよう構成されている。「Our Project」は協働学習を軸としており、対話を通して課題解決に向かう活動が設定されている。単元で十分に扱えない英語表現や異文化情報を深掘りした「Coffee Break」を新設し、生徒の異文化理解を深めるよう工夫されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○目的や場面、状況を大切にした言語活動ができるようになっている。本文の内容を振り返る「Review & Retell」では、相手意識や目的意識をもった表現活動につながり、また「Action」や「Our Project」など単元末の活動ができるよう工夫されている。 ○「とびら」の目標確認から始まり、「Scenes」で新表現が学習でき、「Tuning in」で題材について考え、まとめにつなげる仕組みになっている。その際に、「Step」で簡単な表現への言い換えなども学習できるよう工夫されている。 ○言語活動において必要な語彙が「Expression Box」「Word Box」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」において、発信語彙が太字で表記されている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭には、3年間を通した目標と、1年間の学習の流れが示されており、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には絵や単語がかかれた「アクションカード」が掲載され、ペア学習や会話活動時に使えるよう工夫されている。 ○単元ごとにQRコードが掲載されており、本文の音声や単語、アニメーションをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。 </p>	
表記 ・ 表現	<p> ○1年生前半は小学校と同じ手書き書体、後半は手書きに近い独自のフォントを使用している。2、3年生では一般的な書体を使用している。各学年共通で、アクセントは各単語に赤色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。 </p>	
総 括	<p> ○「Our Project」を軸として、習得した知識・技能を使って自ら考え行動し、目標に向かって自己表現することに重点を置いている。学びに向かう力と豊かな人間性を育て、国際社会に寄与する意識を育てようとする内容となっている。 ○学習者用デジタル教科書では、白黒反転やルビふりなど生徒の多様なニーズへ配慮され、リンク機能を活用し、インターネットのサイトに容易にアクセスできるよう工夫されている。 </p>	

書名 項目	NEW CROWN English Series	15 三省堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「とびら」「Part」「Side Story」「Small Talk Plus」「Goal Activity」で構成されている。「Goal Activity」に向けて段階的に学びを積み重ね、習得した技能を統合して年3回の「Project」で総合的な英語力が習得できるよう工夫されている。 ○「Take Action」では、「Talk」「Listen」「Read」の3つの領域があり、実際の場面や状況に応じた即興のやり取りや、会話を継続する活動、必要な情報をつかむ活動、情報を整理して概要や要点を捉える活動が組み込まれている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Part」では、意見・説明・物語文で構成された「Scene」で情報を整理し、「Goal Activity」では、目的や場面、状況に応じた自己表現活動につなげるよう構成されている。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Goal Activity」に向かうまでに、目的や場面、状況に応じた表現を学び、伝える内容を考え、使える語句や表現を身に付け、適切な文章で書くことができるなど、4技能がバランスよく身に付くよう構成されている。教科書の題材に関連した動画を「Lesson」ごとに設け、異文化に対する理解や学びを深めるよう工夫されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の最初のページの「Lesson Preview」や「Small Talk」では、身近なことについて、伝え合う場面が設けられている。単元末の「Goal Activity」では構成や話し方を工夫して取り組むことができるよう配慮されている。 ○「Talk」では特有の表現を使ってやり取りし、「Listen」では、概要や要点を聞き取り、「Read」では必要な情報を読み取ることができ、巻末資料の中に各活動の充実を図るためのロールプレイシートやスクリプトがある。 ○言語活動において必要な語彙が「Word Bank」「Tips!」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」において、発信語彙が太字で表記されている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭には、この教科書の「しくみと学び方」が示されており、1年間の学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、「会話表現」が掲載され、会話に有効な表現が紹介されている。 ○単元ごとにQRコードが掲載され、単語や本文の音声、アニメーションをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。 </p>	
表記 ・ 表現	<p> ○1年生全編を通して手書き文字に近い独自のフォント、2年生以降は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に黒色で付記し、発音記号は巻末に青字で掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を併記している。 </p>	
総 括	<p> ○「Project」を軸として、言葉を使って表現・理解を深めて伝え合い、多様な学び方を通じた考える力の育成に重点を置いている。国際社会に対応できる資質・能力と豊かな人間性を育てようとする内容となっている。 ○学習者用デジタル教科書では、白黒反転、総ルビ表示など特別支援教育の視点で配慮され、フリーハンドペンやふせんなど紙の教科書と同様に学べるよう工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1>ONE WORLD</h1> English Course	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元は「扉」「Part」「Task」「Grammar」で構成されている。「Grammar」ページの「How to Use」で、文法の解説と整理、対話練習が設定されている。学期末の「Project」では、これまで学んできた知識・技能を活用できるよう工夫されている。 ○「Tips」では4技能の技能を高めるためのコツを扱い、各技能の本質に関わるアドバイスが提示されている。「Useful Expressions」では日常的な場面を設定し、「生きて使える英語」に直結する表現を学ぶことができるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の「Part」で言語材料を習得し、「Think & Try!」と「Read & Try!」を読んで理解を深め、「Task」で自己表現活動につなげるよう構成されている。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末に「Task」と「Grammar」を設置して、各単元で学習した内容の確実な定着を促すよう構成されている。「Project」では、学んだ知識や表現を生かし4技能を統合的に活用し課題解決に取り組めるよう構成されている。生徒がアクセスできる「まなびリンク」では、生徒の多様な興味や学びを促すよう工夫されている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生きて英語」の習得に向けて、「即興的なやり取り」を伸ばす「Activity Plus」や4技能の力を高めるためのコツ「Tips」が扱われている。また、「Useful Expressions」の活動で日常的な場面設定での表現を学習できるよう工夫されている。 ○「Think & Try!」では、内容理解を深めた本文を利用してやり取りの練習ができるようになっている。また「Task」では、話したり、書いたりする活動を通じて、自分の考えなどを発表し、クラスメイトと共有する活動ができるよう工夫されている。 ○言語活動において必要な語彙が「Tool Kit」「Tips」等に取り上げられている。新出語句を扱う「Word & Phrases」において、発信語彙が太字で表記されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には1年間の学習の流れが示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、学習到達目標を自分で確認することができるよう「Can-Do 自己チェックリスト」が掲載されている。 ○単元ごとにQRコードが掲載され、本文や単語の音声をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。 	
表記 ・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生前半は独自の手書き風書体、後半はブロック体を使用している。2年生以降はローマン体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を併記している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「Project」を軸として、明確な目標を意識しながら主体的に学び、考え、伝え合うことに重点を置いている。学びの力で人と社会を未来へつなぐ力を育み、英語を使って世界で生きていく人材を育くもうとする内容となっている。 ○学習者用デジタル教科書では、録音・再生機能を設けられており、自分の声を録音して、ネイティブ音声と比較することができるよう工夫されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">Here We Go!</h1> ENGLISH COURSE	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光 村</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○各単元は「扉」「Part」「Goal」で構成され、3年間ひと続きのストーリーを中心に学ぶようになっている。また、ラウンドシステムの授業にも対応できるよう構成されている。スパイラルに学習しながら統合的な活動「You Can Do It!」につなげられるよう工夫されている。</p> <p>○実社会の言語使用場面で役立つ力を身に付ける「Daily Life」では、領域統合型の活動も設定されている。また、自分の言葉で表現する力や、実社会で役立つ即興力を継続的に養えるよう、「Let's Talk!」や「Story Retelling」が設定されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○単元の「Part」で目的や場面、状況を捉え、各「Part」を読んで理解を深めた後、情報整理、発表の「Goal」で構成されている。また、「You Can Do It!」では、「Unit」の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○3年間のストーリーを読み進めることで、英語の使用目的や場面を理解し、話題を自分事にし、生徒の主体的な発信につながりやすくするよう構成されている。「Idea Hunt」や「TIP」では、生徒が本文を活用しながら自分なりに表現できるよう工夫されている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <p>○目的や場面、状況に応じて、英語を聞くことを重視し、各単元では、本文に加え、「Part」や「Goal」にも豊富な聞く活動が設定されている。また、段階的に文字量や扱う文種を増やし、豊かなインプットの機会を確保できるよう配慮されている。</p> <p>○各単元で、基本文に関連した即興的なやり取りを練習できる活動が設けられている。「Let's Talk!」では、即興的なやり取りの力を継続的に高め、「You Can Do It!」では、発表活動を通してスピーキング力を育てられるよう工夫されている。</p> <p>○言語活動において必要な語彙が「Key Phrases」「Key Words」等に取り上げられている。新出語句を扱う「Words」において、発信語彙が太字で表記されている。</p>	
資 料	<p>○巻頭には、教科書の構成と、3年間を通しての到達目標が示され、1年間の学習の見通しが立てられるよう工夫されている。巻末には、「Let's Talk!」が掲載されており場面に応じて会話する力が付けられるよう工夫されている。</p> <p>○単元ごとにQRコードが掲載され、本文の音声や単語、アニメーション、実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
表記 ・ 表現	<p>○1年生前半は独自の手書き体、後半はブロック体とセリフ体を併用して2年生以降につなげている。1年生では、アクセントは各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセント、発音記号を青色で併記している。</p>	
総 括	<p>○「You Can Do It!」を軸として、互いの違いを尊重し、他者と協働しながら確かな英語の力を育むことに重点を置いている。ラウンドシステムにも対応し、よりよい未来を切り拓く力を身に付けた自律的学習者を育もうとする内容となっている。</p> <p>○学習者用デジタル教科書では、教科書のストーリーを映像化した実写ドラマが用意されているほか、活動の内容に関連したスピーキングテストに取り組めるよう工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">BLUE SKY</h1> English Course	6 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">啓林館</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」で構成され、各学期末には技能統合型の言語活動として「Project」が設定されている。ラウンドシステムにも対応しており、スパイラルに学べるよう工夫されている。 ○各技能領域に特化した活動の「Let's」シリーズでは、各技能領域の力を実生活に即し場面や状況設定で学習できるよう工夫されている。また、各「Part」の「Enjoy Chatting」では即興で話し、伝え合う力を育成できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Part」で目的や場面、状況を捉え、「Read / Listen & Think」でテーマに沿った英文を読んだり聞いたりして自分の考えをもち、「Express Yourself」で自己表現する機会が設けられている。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元で4技能の課題に取り組むことを通して、基礎・基本が定着しやすく、技能統合型の言語活動「Project」に取り組みやすくするよう構成されている。「Notes」などの解説を充実させ、生徒の興味・関心や異文化理解を深めることができるよう工夫されている。デジタルコンテンツを活用し、自律的な学習を促すよう工夫されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の最初のページの「とびら」では Input と Output のそれぞれの目標を「Unit Goal」に示している。次の各「Part」では知識・技能の定着を図り、最終的に自分の意見を表現する活動につなげられるよう工夫されている。 ○各単元の「Express Yourself」では、ここまでの言語活動を踏まえて、自分の感想や考えを表現する力が身に付くよう工夫されている。また、「Unit」の4技能の活動でメモを基に発表したり、まとまりのある文章を書いたりできるようになっている。 ○言語活動において必要な語彙が「Tool Box」に取り上げられている。新出語句を扱う「Words」において、発信語彙が太字で表記されている。 </p>	
資 料	<p>○巻頭には、教科書の使い方が示されており、1年間の学習の進め方が分かるよう工夫されている。巻末には「CAN-DO List」が掲載されており、学習の達成度を自己評価できるよう工夫されている。</p> <p>○単元ごとにQRコードが掲載され、単語や本文の音声、アニメーションなどがスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
表記 ・ 表現	<p>○1年生はUDフォント、2年生以降は Century Schoolbookを使用している。1年生はアクセントを各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2、3年生はアクセントと発音記号を併記している。</p>	
総 括	<p>○「Project」を軸として、スパイラルな学びを通して定着した力を活用して即興力を養い、自分の考えを表現することに重点を置いている。ラウンドシステムにも対応し、持続可能な社会の担い手となるための資質・能力を育もうとする内容となっている。</p> <p>○学習者用デジタル教科書では、白黒反転や読み上げ機能など、学習支援機能が搭載されているほか、音声や動画の速度変更機能で各自のペースで学習が進められるよう工夫されている。</p>	

外国語科（英語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	170	182	188	182	194	166
	2年	158	166	172	182	194	170
	3年	158	166	172	182	194	154
2 新出総単語数	1年	993	997	1030	1194	1268	1130
	2年	589	663	860	975	671	801
	3年	717	577	933	1024	634	644
	合計	2299	2237	2823	3193	2573	2575

○領域別教材数等（言語活動）について

※ 2は3の合計 3③は言語活動と本文を合わせた教材数

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館	
1 単元数 (Lesson, Program, Unit等)	1年	27	31	26	33	28	26	
	2年	21	27	25	36	29	26	
	3年	19	25	25	34	21	19	
2 総教材数	1年	156	195	179	189	189	240	
	2年	162	186	160	196	186	249	
	3年	142	180	150	156	168	197	
3 領域別教材数	① 主に聞くこと	1年	38	64	61	73	71	86
		2年	31	62	58	72	68	79
		3年	29	54	58	55	55	62
	② 主に読むこと	1年	43	39	37	48	32	24
		2年	65	41	38	57	37	49
		3年	55	38	32	46	39	40
	③ 主に話すこと【やり取り】	1年	31	15	33	38	39	59
		2年	31	10	19	32	42	45
		3年	22	22	20	20	29	35
	④ 主に話すこと【発表】	1年	8	38	15	14	19	14
		2年	17	35	14	18	10	16
		3年	19	28	11	22	16	14
	⑤ 主に書くこと	1年	36	39	33	16	28	57
		2年	18	38	31	17	29	60
		3年	17	38	29	13	29	46

○文種別教材数（本文）について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 物語・詩	1年	1	1	3	3	1	1
	2年	4	1	2	2	1	2
	3年	0	1	1	2	1	1
2 説明文・意見文・感想文	1年	8	6	10	4	4	10
	2年	10	8	18	10	4	17
	3年	10	17	7	7	6	12
3 対話文・スキット	1年	23	34	18	25	27	28
	2年	12	28	18	22	24	17
	3年	9	16	18	16	15	11
4 その他 (伝言・手紙・メール文を含む)	1年	6	4	15	8	10	4
	2年	18	14	11	13	16	12
	3年	21	12	13	15	18	12

○その他

内容	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 世界の人々や日本人の日常生活や風俗習慣に関する題材	①ニュージーランドの学校生活、ハワイでの生活、世界の年末年始 ②シンガポールへの旅行、日本と外国の食文化、アメリカへのホームステイ、ユニバーサルデザイン ③日本のポップカルチャー、防災、国際協力	①日本の食文化、パジャマデー、世界の果ての通学路、世界の年末年始、フィンランドでの生活 ②世界の屋台文化、アメリカの弁当文化、睡眠、パラスポーツ、手話、ロボット開発、イグノーベル賞	①イギリスでの生活、アメリカの学校生活、中華街、標識・記号・ピクトグラム、防災 ②ピーターラビット、中国の文化、シンガポールの姉妹校 ③インド映画、公平、行動心理、インドの言語	①オーストラリアの学校生活、中華街、標識・記号・ピクトグラム、北海道の自然 ②しまなみ海道、松山市、補助犬、ユニバーサルデザイン、サンタ・ラン、ジェスチャー、手話 ③バンクーバーでの生活、ドギーバッグ	①アメリカの学校生活、世界の屋台、日本の年末年始 ②防災、盲導犬、ボランティア活動 ③京都への修学旅行、AIテクノロジー、ロボット開発、アフリカの女性教育、ノルウェーの選挙	①カナダでの生活、ニューヨークの年末年始 ②防災、食の多様性 ③だまし絵、動物との共存、ユニバーサルデザイン
2 世界や日本の伝統文化に関する題材	①外国人落語家、落語 ③風呂敷	①日本食	①将棋、神社、漫画・アニメ、着物、茶道、旅館、そば、和太鼓、昔話 ②書道、折り紙、落語、中国茶 ③漫画とアニメ	①中華料理 ②俳句、ハロウィーン、お盆、鎌倉の大仏、日本の城、落語、風呂敷、餅、こたつ、将棋、獅子舞、富士山、日本料理 ③和食	①日本の夏祭り ②絵文字、かるた、食品サンプル、アイヌ文化	①和菓子 ②青森ねぶた祭、台湾の平溪天燈説、ペルシヤのインティ・ライミ、長岡まつり大花火大会、たい焼き、花見
3 世界の地理や歴史に関する題材 (平和に関する学習を含む)	①イギリス、世界の諸問題 ②時計の歴史、世界遺産 ③原爆、ガンディー	①オーストラリア ②アフリカ甲子園、日本とトルコの友好、原爆、佐々木禎子 ③バスケットボール、チョコレート、マハラ・ユスフザイ、中村哲	②オーストラリア、シンガポール ③原爆、佐々木禎子、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア、飢餓	②グランド・キャニオン、アンテロープ・キャニオン ③中村哲、原爆、人種差別、児童労働	②シンガポール ③南アフリカ、広島平和記念公園、原爆、杉原千畝、人種差別	①ハワイ、ロンドン ②シンガポール、世界遺産 ③原爆、佐々木禎子、モザンビークの貧困問題
4 自然科学に関する題材	①世界の水問題 ②アラスカの問題 ③エンカルファッション、絶滅危惧種、エネルギー問題	②バンフ国立公園、生物をヒントにした技術、動物の生態 ③野生動物の命、海のごみ問題	②世界の水問題 ③環境問題、自然から学ぶ	①SDGs ②環境問題、地球温暖化、再生可能エネルギー ③野生動物の命、宇宙のごみ問題	③絶滅危惧種、環境問題、SDGs	①海洋ゴミ問題 ③動物保護、気候変動、地球温暖化
5 最長読み物教材総単語数 ()は付録読み物	①239 ②397 ③556	①247 ②326 ③376 (1384)	①190 (217) ②304 (355) ③488 (299)	①217 (235) ②516 (541) ③488 (605)	①112 (154) ②377 (325) ③516 (466)	①332 ②540 ③930
6 スピーチの取扱い	①6 ②6 ③4	①6 ②11 ③11	①9 ②8 ③8	①12 ②8 ③6	①7 ②8 ③4	①5 ②6 ③10
7 文法事項の説明に関するページ数	①11 ②7 ③6	①10 ②8 ③8	①10 ②10 ③10	①15 ②10 ③6	①7 ②8 ③5	①13 ②11 ③6
8 QRコードの数	①88 ②86 ③78	①78 ②71 ③67	①86 ②81 ③74	①69 ②76 ③62	①83 ②79 ③72	①72 ②70 ③51

※①は1年生、②は2年生、③は3年生を表している。

道徳科調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <p>○道徳的価値の意義及びその大切さなどを自分との関わりで理解させるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めさせるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度）を育成するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <p>○現代的な課題についてどのように取り上げ、その解決に向けて考え続ける意欲や態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <p>○発達の段階に即し、ねらいを達成する上で、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <p>○考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習に関して、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を喚起するために、読み物教材にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○効果的に活用するために、挿絵や写真、図などにはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○教材の内容を把握しやすくさせるために、仮名遣いや用語などにはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○主な記述（読み物教材など）と道徳科の内容項目との関係の示し方にはどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新編 新しい道徳</h1>	2 東 書
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ねらいとする内容項目がぶれないようにするために、全ての教材の冒頭に学習のテーマが設定されている。教材末尾の発問と呼応させることで、教材の全体を通して道徳的価値の意義について考えを深めることができるよう工夫されている。 ○全ての教材に自己を見つめるための発問が用意されている。多面的・多角的に考える力を育むため、一つの事象について複数の立場から考えさせる教材が配置されており、対話を通して問題解決を図ることができるよう工夫されている。 ○教材末尾の「考えよう」「見つけよう」の問いの後に、「ぐっと深める」の問いがあり、人間としての生き方を考えられるよう工夫されている。また、教科書の巻末資料の心情円を活用することで、自分の気持ちを可視化できるよう工夫されている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ問題」や「情報モラル」について、イラストや漫画、グラフ等を活用した教材を通して、考えが深まるよう工夫されている。 ○各学年に「生命の尊さ」に関する教材を配置し、防災教育と道徳を合わせた教材が掲載されている。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達の段階を考慮して教材を配置することで、小学校との関連や学年間での連携を意識して取り組むことができるよう工夫されている。 ○各学年に、生徒が自分自身の成長と向き合い、思考が深まるよう教材の構成が工夫されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての教材に考えたことを記入できる「つぶやき」が設けられ、記述した内容を基に、話し合いなどに活用できるよう工夫されている。 ○生徒に身近な題材やソーシャルスキルに関する教材を通して、考えを深めたり、広げたりできるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真やポスター、グラフから考える教材や漫画を活用した教材、導入で教材の内容に関わる漫画や挿絵を見ながら考える教材など、多様な教材が掲載されている。 ○イメージを広げる絵や写真が適所に掲載され、教材の理解を促すよう工夫されている。 ○全ての教材に二次元コードがあり、朗読音声やデジタル心情円、教材の補足資料などを見ることができる。教材文と同じ内容の映像を視聴できる教材が掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。 ○目次と教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。巻末で、現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関連が示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材と関連したテーマをより深く広く考えられるよう、発達の段階に応じた内容で、日常生活や他教科と関連させて生かせるよう工夫されている。 ○巻末に設けられている心情円で、自分の考えを可視化できるよう工夫されている。 	

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">中学道徳 とびだそう未来へ</h2>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材に設定された導入で学習の見通しをもち、道徳的価値を意識付けできるよう工夫されている。教材末尾の「学びの道しるべ」により、三つの問いを通して段階的に道徳的価値の意義について理解を深めることができるよう工夫されている。 ○巻頭には話し合いを進めるためのポイントや考えを深めるための学習過程や方法を例示し、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。また、教材末尾には思考を促す問いが設定されている。 ○教材末尾の「学びの道しるべ」の問いを通して、これからの生き方について考えを深められるよう工夫されている。巻末に『「よりよく生きる」って、どういうことだろう?』を設け、自分の成長を実感し、課題や目標が見つけれられるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ問題」「情報モラル」「生命の尊さ」について、多様な教材を通して、様々な視点から問題の本質について考えを深めていくことができるよう工夫されている。 ○各学年に災害や防災を題材とした教材が掲載され、日々の生活の中で、安全への意識を高められるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての学年に発達の段階に応じた取り組みやすさを重視した教材が掲載され、考え、議論する時間がとれるよう工夫されている。 ○各学年に小学校との関連や学年間での連携を意識した教材が扱われ、生徒の思考が深まるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材に適宜記入欄を設けることで、自分の考えをまとめ、それを基に話し合う言語活動を充実させるよう工夫されている。 ○「やってみよう」の活動では、直前の教材に関連した体験的な学習を通して、学びが深められるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○考える時間を確保できる教材や、写真やポスター、グラフから考える教材、漫画や絵本を活用した教材など、多様な教材が掲載されている。 ○イメージを広げる絵や写真が適所に掲載され、教材の理解を促すよう工夫されている。 ○全ての教材に二次元コードがあり、教材解説や補足資料、心情メーターなどをウェブサイトで見ることができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。 ○目次と教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。巻頭末に現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関連が示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材内容の理解がしやすい多様な教材が設定され、二次元コードから心情メーターを読み込むことで思考を可視化し、対話を促す工夫がされている。 ○ねらいとする道徳的価値について学べるよう「学びの道しるべ」が設けられている。 	

道徳科調査資料 1 - 3

書名 項目	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき	38 光 村
内 容	<p> ＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞ ○1時間の学習過程が分かる「てびき」が設けられ、教材を通して何を学ぶのか意識ができるよう工夫されている。課題の設定や中心となる発問により、道徳的価値の意義や意味について考えを深めることができるよう工夫されている。 ○自己を見つめ、友達と話し合いながら自分の考えを深めていく重要性が分かる第一教材が設定されている。教材末尾に「考えよう」の発問とは視点を変えた「見方を変えて」を設け、多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。 ○教材末尾の「考えよう」の問いを通して、教材の学びのテーマを意識し、授業の最後にもう一度振り返ることができるよう工夫されている。「つなげよう」では、日常生活や他教科と関連して考えることを通して、自分の考えが深まるよう工夫されている。 </p> <p> ＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「いじめ」「情報モラル」について、生徒自身に関わる身近な問題を取り上げた教材を掲載するとともに、生徒が自ら問いを立て、考えられるよう工夫されている。 ○全学年に「防災」をテーマとした教材を掲載し、教材を通して過去に学び、生徒の防災意識を高められるよう工夫されている。 </p> <p> ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○全ての学年で学びのポイントを示し、生徒が発達の段階に応じて主体的に学ぶことができるよう配慮されている。 ○各学年に小学校との関連や学年間での連携を意識した教材が扱われ、生徒の思考が深まるよう工夫されている。 </p> <p> ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○他者との話し合いを通して、身の回りの当たり前を問い直し、新たな考えを生み出すことができるよう工夫されている。 ○対話を通して問題を解決するための段階を示し、道徳的価値に対する考えが深められるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○写真やグラフから考える教材や漫画を活用した教材、自分の考えを書き込む教材など、多様な教材が掲載されている。 ○イメージを広げる絵や写真が適所に掲載され、教材の理解を促すよう工夫されている。 ○二次元コード付いている教材では、朗読音声や教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。 </p>	
表記・表現	<p> ○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。 ○目次と教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。巻末で、現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関連が示されている。 </p>	
総 括	<p> ○教材の内容に応じて、「見方を変えて」や「つなげよう」で他教科や日常生活につなげて自分のこととして考えられるよう工夫されている。 ○協働的な学びが実現できるように生徒が自ら問いを立て、考える教材が設けられている。 </p>	

道徳科調査資料 1 - 4

書名 項目	中学道徳 あすを生きる 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート	116 日 文
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材の冒頭に「学びのキーワード」を明示し、見通しをもち主体的に学習に臨めるよう工夫されている。教材末尾の「自分にプラスワン」の発問を通して、学んだことを前向きに生かし、道徳的価値を自分との関わりで理解できるよう工夫されている。 ○巻頭に対話的・協働的な学習場面が例示され、多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。教材末尾の「考えよう」の発問を通して、人間としての生き方について多様な意見が出せるよう工夫されている。 ○別冊の道徳ノートが付属しており、年間を通して使用することで自分の成長が実感できるよう工夫されている。話合いの過程で自分や他の生徒の考えを記入することができ、広い視野から自己を見つめられるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての学年で「多様性の尊重」に関わる教材を掲載し、共生社会や人権教育、相互理解に関わる内容について、自他の尊重への意識を高められるよう工夫されている。 ○「いじめ問題」「情報モラル」「防災」に関する教材を複数配置し、考える機会を設けることで一人一人が自分事として捉えられるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○3年間で系統的・発展的な学習ができるように、各学年でテーマ（1年生「である」2年生「みつめる」3年生「ひらく」）が設定されている。 ○各学年に小学校との関連や学年間での連携を意識した教材が扱われ、生徒の思考が深まるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○話合いの手法や整理方法を示した教材を掲載し、対話的・協働的な学びが実現できるよう工夫されている。 ○「学びを深めよう」のページでは、問題解決的な学習や体験的な学習を通して、考えを深めることで納得解を得られるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真やポスター、グラフから考える教材や漫画を活用した教材など、多様な教材が掲載されている。 ○教材の場面理解を促す大小様々な挿絵や写真が掲載されている。 ○全ての教材に二次元コードがあり、朗読音声や心情メーター、思考ツールを活用でき、補足資料などをウェブサイトで見ることができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。 ○巻末で学習指導要領の四つの視点（学びのキーワード）や他教科・領域との関連が示されている。目次と巻末で現代的な課題等との関わりが示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○別冊の道徳ノートには自分の意見や話合いの内容を記入することができ、それらを通じて、自らの成長を実感し、協働的な学びを積み重ねられるよう工夫されている。 ○二次元コードを活用し、思考を可視化するツールを設けられている。 	

書名 項目	新版 中学生の道徳 明日への扉	224 学 研
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「考えを深めるための4つのステップ」に、道徳的価値を自分との関わりで理解ができるよう、学びのヒントとして具体的な展開例を示している。テーマについて、自ら関心をもち、学びが深められるよう発問が工夫されている。 ○巻頭に多面的・多角的に考えを深める方法の例示があり、話し合いを自己の生き方につなげられるよう工夫されている。「クローズアップ」に、教材に関連した様々な視点からの情報などを扱い、多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。 ○教材の後に適宜「深めよう」があり、対話的な活動を通して道徳性の育成につながるよう工夫されている。巻末には「未来への扉」を設け、1年間を振り返り、今年度の学びを次年度へつなげる工夫がされている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様性を大きなテーマとし、様々な視点で考えられる教材が掲載され、多様な考えを引き出せるよう工夫されている。 ○「情報モラル」や「防災教育」、「いじめ問題」に関する教材を各学年で掲載しており、一人一人が自分事として考えられるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達の段階や学校生活等における生徒の問題意識を尊重し、自ら考え、議論する時間の確保ができるよう教材の構成や発問が工夫されている。 ○同じ内容項目を扱う教材を通して、生徒が自分の成長と向き合い、生徒の思考が深まるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材に適宜書き込み欄を設け、気が付いたことや考えたことを記入することを通して、思考を整理できるよう工夫されている。 ○「考えを深める4つのステップ」として問題解決的な学習の手立てを示し、生徒が考えを深める学習過程が工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真やグラフから考える教材や漫画や紙芝居を活用した教材など、多様な教材が掲載されている。教材への関心や問題意識が高まる言葉が全ての教材の冒頭に記されている。 ○イメージを広げる絵や写真が適所に掲載され、教材の理解を促す工夫がされている。 ○二次元コードが付いている教材では、教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。 ○目次と教材冒頭と巻末で、学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。目次や教材冒頭で現代的な課題等との関わりが示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材を基に考え、周りの人と話し合いながら自分のこととして多面的・多角的に考えを深められるよう、現代的な課題について議論できる手立てが提示されている。 ○テーマについて考えを深められるよう系統的な学習内容が設けられている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学生の道徳</h1>	232 あか図
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ねらいがぶれないようにするために学習活動がイメージできる授業の流れを意識した発問が設定されている。教材末尾の「自分との対話」は、教材での学びを踏まえて、道徳的価値を主体的に考えられるよう工夫されている。 ○主体的な学びを促すための「自分を見つめて考える」と対話的な学びを促すための「いろいろな見方で考える」発問を通して、多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。 ○教材末尾の「考えを深める」の問いを通して、自分の意見や考え方を更に深められるよう工夫されている。全ての教材に「自分との対話」を設け、教材での学びを踏まえて、自分自身や道徳的価値について問い直すことができるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生命尊重」と「いじめ防止」を最重要課題と位置づけ、学年ごとに複数の教材を設定している。「いじめ問題」は、3年間を通して、学びが深まるよう工夫されている。 ○「情報モラル」について、ネットいじめに関する内容について、様々な視点から考えられるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達の段階に応じて、学びを広げて思考が深まる構造になるよう教材の構成や発問が工夫されている。 ○各学年の教材では発達の段階に合わせて資料が配置され、生徒の思考が深まるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年で「オリエンテーション」のページを設け、どんな内容をどのように学ぶのか、学年によって目的をもって学びに向かうことができるよう工夫されている。 ○「マイ・プラス」のページでは、役割演技や話し合いを取り入れて、生徒が様々な立場で想像したり考えたりできるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○読み継がれてきた教材や、写真やグラフから考える教材、漫画や詩を活用した教材など、多様な教材が掲載されている。 ○教材を読み進める上で生徒の思考を促せるような挿絵や写真が掲載されている。 ○二次元コードが付いている教材では、教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。 	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。 ○教材冒頭と巻末に、学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。巻末で現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関連が示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○現代的な課題に向き合えるよう発達の段階に応じた教材の配置と、多面的・多角的に考えられる視点を持ち、学びを広げ、深められるよう工夫されている。 ○各学年に役割演技や問題解決的な学習、体験的な学習などができるよう工夫されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">道徳 中学校</h1>	233 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 科</div>
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○内容項目「4つの視点」を基に、発達の段階別にテーマを設けている。道徳的価値の理解のために、巻末の「ウェルビーイングカード」を活用し、自分との関わりについて考えられるよう工夫されている。 ○巻頭に道徳の授業の流れや今までの自分を振り返るページがあり、自己を見つめることができるよう工夫されている。「考えよう」を活用し、道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう工夫されている。 ○教材末尾の「深めよう」の問いを通して、自分の見方や考え方が変わったり深まったりすることが実感できるよう工夫されている。「ウェルビーイングカード」を活用することで、よりよく生きるための基盤となる資質を育成できるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「情報モラル」について、身近に起こりうるネットトラブルから、どう身を守るかを喫緊の課題と捉え、生徒にとって現実味のある教材が工夫されている。 ○「いじめ問題」については、学校生活の中で、「いじめ」に陥りやすい場面を掲載しており、生徒が自分事として捉えられるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生は自己理解、2年生は自己啓発、3年生は自己実現について、それぞれのテーマに向き合う課題が設定されている。 ○教材の配置を工夫し、発達の段階や学校生活及び他教科との関連で、組み換えができるよう配慮されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者との話し合いを通して、当たり前を疑い、深く考えることができるような視点がもてるよう工夫されている。 ○「思考」を重視した授業展開へと転換をするために、自分自身への「問い」から、話し合いをもとに課題解決ができるよう発問が工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真やグラフから考える教材や動画や漫画を活用した教材、自分の考えを書き込む教材など、多様な教材が掲載されている。 ○教材の場面理解を促す大小様々な挿絵や写真が掲載されている。 ○二次元コードが付いている教材では、教材の補足資料などをウェブサイトで見ることができる。 	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○UDなど全ての人に使いやすい合理的配慮、教材や挿絵についての人権的配慮や多様性の配慮がされている。 ○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。 ○教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。目次で現代的な課題等との関わりについて、様々なテーマで系統的に示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びに対応できるよう、各学年の巻末の「ウェルビーイングカード」を活用し、意見を伝え合える環境になるよう工夫されている。 ○社会的・文化的な多様性、多面性を意識した教材や話題の工夫がされている。 	

道徳科 調査資料 2

○総ページ数

※「日文」は、道徳ノートが別冊となっている。

※ 目録掲載
のページ数

学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
1年	202	209	191	178+42	190	194	163
2年	201	201	199	186+42	194	194	167
3年	201	201	199	194+42	198	194	171

○内容項目の配当数

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
自主、自律、 自由と責任	1年	2	2	2	2	2	4	2
	2年	2	2	2	2	2	4	2
	3年	2	2	3	2	2	4	2
節度、節制	1年	3	2	2	1	2	2	1
	2年	3	2	1	1	2	1	1
	3年	2	1	1	1	2	1	1
向上心、 個性の伸長	1年	1	2	1	2	1	1	1
	2年	1	2	2	1	1	1	1
	3年	1	2	2	2	1	1	2
希望と勇気、 克己と強い意志	1年	1	1	1	1	2	2	2
	2年	1	1	1	2	1	2	2
	3年	1	1	2	1	1	2	2
真理の探究、 創造	1年	1	1	1	1	1	1	2
	2年	1	1	1	1	2	1	1
	3年	1	1	2	1	2	1	2
思いやり、感謝	1年	3	3	3	2	2	3	2
	2年	2	2	1	2	2	3	2
	3年	2	1	1	2	2	3	2
礼儀	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	1	1	1
	3年	1	1	1	1	1	1	1
友情、信頼	1年	2	2	1	2	3	3	2
	2年	3	2	3	2	2	3	2
	3年	2	2	1	2	2	2	2
相互理解、寛容	1年	2	2	2	2	1	2	2
	2年	2	2	3	2	2	1	1
	3年	2	2	3	2	2	1	2
遵法精神、 公德心	1年	2	1	3	2	2	3	2
	2年	2	2	3	1	2	2	2
	3年	2	1	2	2	2	2	2
公正、公平、 社会正義	1年	2	2	3	2	2	3	2
	2年	2	2	3	2	1	3	2
	3年	3	2	3	2	2	3	2
社会参画、 公共の精神	1年	2	1	1	2	1	2	2
	2年	2	2	1	2	2	1	2
	3年	3	3	1	3	2	1	1
勤労	1年	3	1	1	1	1	1	1
	2年	2	1	1	2	1	1	1
	3年	2	1	1	2	1	1	2
家族愛、 家庭生活の充実	1年	1	2	1	1	1	3	1
	2年	1	1	1	1	1	2	2
	3年	1	1	1	1	1	3	2
よりよい学校生 活、集団生活の 充実	1年	1	1	1	1	2	1	1
	2年	1	1	1	1	2	2	1
	3年	1	1	1	1	1	1	1
郷土の伝統と文 化の尊重、郷土 を愛する態度	1年	2	2	1	2	1	1	1
	2年	1	2	1	1	1	1	1
	3年	1	1	1	1	1	2	1

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	2	1	1	2	1	2	2
	3年	1	2	1	1	1	1	1
国際理解、国際貢献	1年	1	1	1	2	2	1	2
	2年	2	2	1	2	1	2	2
	3年	3	1	1	2	2	1	2
生命の尊さ	1年	3	3	3	3	3	3	2
	2年	3	2	3	3	3	3	2
	3年	3	2	3	3	3	5	1
自然愛護	1年	2	1	1	2	1	1	1
	2年	1	1	1	2	2	1	1
	3年	1	3	1	1	1	1	1
感動、畏敬の念	1年	1	1	2	2	1	1	1
	2年	1	1	1	1	1	1	1
	3年	2	2	1	1	1	1	1
よりよく生きる喜び	1年	2	2	2	1	2	3	2
	2年	3	2	2	2	2	4	2
	3年	2	2	2	2	2	3	1
※ その他	1年	0	0	2	0	0	2	1
	2年	0	0	2	0	0	2	1
	3年	0	0	2	0	0	2	1

※「その他」の数は、内容項目が示されていない教材数を表す。

○教材総数に占める四つの視点ごとの割合

視点	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
教材総数	1年	39	35	37	36	35	45	35
	2年	39	35	37	36	35	44	35
	3年	39	35	37	36	35	45	35
A 主として自分自身に関すること	1年	21%	23%	19%	19%	23%	22%	24%
	2年	21%	23%	19%	19%	23%	20%	21%
	3年	18%	20%	27%	19%	23%	20%	26%
B 主として人との関わりに関すること	1年	21%	23%	19%	19%	20%	20%	21%
	2年	21%	20%	22%	19%	20%	18%	18%
	3年	18%	17%	16%	19%	20%	16%	21%
C 主として集団や社会との関わりに関すること	1年	38%	34%	35%	39%	37%	38%	38%
	2年	38%	40%	35%	39%	34%	39%	44%
	3年	44%	37%	32%	42%	37%	36%	41%
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	1年	21%	20%	22%	22%	20%	20%	18%
	2年	21%	17%	19%	22%	23%	23%	18%
	3年	21%	26%	19%	19%	20%	24%	12%

※ %は、当該学年の教材総数に占める割合を表す。（端数処理のため、合計が100%にならないことがある。また、一つの教材において視点が複数にまたがり両方の視点でカウントしている場合や、教材の内容項目が示されていない場合があるため、合計が100%にならないことがある。）

○各学年で取り上げている題材延べ数に占める題材ごとの割合

題材	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
題材のべ数	1年	123	68	75	78	68	54	37
	2年	109	66	74	84	84	54	41
	3年	105	49	61	95	73	57	36
生命の尊厳	1年	6%	9%	8%	9%	10%	9%	8%
	2年	7%	11%	4%	8%	8%	9%	5%
	3年	4%	10%	5%	16%	7%	16%	8%
社会参画	1年	20%	16%	5%	10%	7%	11%	16%
	2年	10%	18%	9%	8%	8%	15%	15%
	3年	15%	31%	10%	14%	5%	14%	14%
自然	1年	6%	7%	5%	6%	3%	4%	8%
	2年	5%	5%	7%	8%	5%	9%	7%
	3年	3%	10%	3%	5%	3%	9%	6%
伝統と文化	1年	5%	9%	9%	9%	4%	6%	5%
	2年	3%	5%	12%	10%	5%	7%	5%
	3年	4%	10%	10%	6%	8%	9%	6%
先人の伝記	1年	2%	4%	0%	3%	0%	0%	5%
	2年	6%	8%	1%	4%	4%	1%	5%
	3年	6%	4%	0%	6%	3%	4%	6%
スポーツ	1年	2%	3%	1%	4%	7%	7%	3%
	2年	5%	3%	0%	6%	7%	9%	2%
	3年	5%	2%	0%	4%	8%	7%	3%
現代的課題等	1年	30%	34%	45%	47%	32%	31%	46%
	2年	27%	32%	26%	48%	26%	22%	46%
	3年	30%	20%	30%	39%	30%	25%	50%

※ %は、当該学年で取り上げている題材延べ数に占める割合を示す。

※ 現代的課題等： いじめ、情報モラル、消費者教育、防災教育、食育、人権、環境など

○QRコードの数について

題材	学年	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
QRコードの数	1年	47	55	31	46	14	13	28
	2年	47	58	27	46	13	17	24
	3年	46	52	27	46	12	17	16